



海事プレスニュース

2014/03/19(水)

NK、設計ソフト大手NAPA買収、設計・最適運航支援ツールを強化



調印式

NK、設計ソフト大手NAPA買収 設計・最適運航支援ツールを強化

日本海事協会(NK)はフィンランドの設計、運航支援ソフトウェア会社NAPAを買収した。買収額は5300万ユーロ(約75億円)。ヘルシンキで現地時間の17日に契約調印した。世界最大規模の船級協会が設計・運航支援システムの最大手を買収し、船舶の設計や運航効率改善のカギを握るツールとなるソフトウェア開発を加速させる。一方、NAPAの造船設計システムは業界標準になっているため、NKは買収後も同システムに関する同社の経営の独立性を保证する方針。海事業界全体に有益な開発を中心に継続的に発展させていく。

NAPAは1989年に創業したソフトウェア会社で、日本を含む世界7カ国の拠点で、海事分野に特化した革新的なソフトウェアを提供している。同社のソフトウェアは船舶の設計や運航効率改善の支援に寄与しており、多くの造船所や船舶設計会社が利用。中でも船舶設計システム「NAPA for Design」は造船設計における業界標準として、世界の9割以上の造船所が導入している。

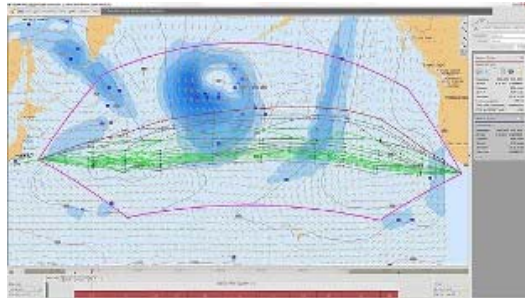
NAPAは欧州造船所の設計部門が独立してスタートしたソフトウェア会社で、従来、開発の中心は造船設計ソフトだった。だが、近年は最適運航支援ソフトなど、海運会社のニーズに対応した開発も推進。NKも海運会社向けサービス事業を近年拡大していることから、NKとNAPAは最適運航支援システム「ClassNK-NAPA GREEN」の共同開発を推進してきた。同開発で協力関係を深めた経緯から、今回同システムの完成を受け、買収に正式合意した。

設計システム会社を傘下に持っている船級協会もあるが、NKは従来、設計システムに関しては船級サービスの一環として独自に開発、供給してきた。今回の買収を通じ同分野の展開を一層強化する方針。IMO(国際海事機関)の規制で船舶は今後エネルギー効率を低減させていく方向にあるが、「ClassNK-NAPA GREEN」は燃料コストや排ガスの削減、運航業務の効率化に寄与するとともに、IMOのSEEMP(船舶エネルギー効率管理計画)規制に船社が準拠できるようサポートする。NKは船社の要望を踏まえ、同ソフトを運航支援の基幹ツールとして提供していく。また、NAPA買収を通じ、客船など日本では実績の少ない分野への参入も強化する。

ソフトはトリムの最適化やウェザールーティング、最適スピードプロファイル、運航データのリアルタイム監視などの機能でデータを収集し、高度な解析を行うことで、本船の性能や燃費変化の要因を自動で解析する。さら

に、解析で得られた結果を基に、本船の運航特性を実績に合わせて自動で調整し、最適な運航状態を推定する。運航支援システムは他のソフトウェア会社やメーカー、船級のほか、一部海運会社が自社開発でも手掛けている。だが、NKとNAPAのソフトはデータを蓄積すればするほど運航最適化の精度を向上できるのが最大の特徴という。

従来は難しかった、実船の運航データを造船所の設計にフィードバックしていくことも視野に開発されている。実海域の性能向上は造船所の船型開発で今後重要になってくる。実海域性能を設計にフィードバックするスキームを開発するため、NKは今治造船やサノヤス造船と共同で実船試験も実施。このほかにも造船2社が協力している。IMOの現在の規制は平水中が条件になっているが、将来は実海域を想定していくことも検討されている。設計や最適運航を支援するツールとなるソフトウェア開発の重要性が、今後も高まっていく見通し。



最適運航支援ソフトの画面

[記事一覧に戻る](#)

[この記事印刷する](#)